

A decorative graphic featuring three sets of concentric blue circles. One set is in the top right, a smaller one is below it, and a large one is in the bottom right corner. Two thin blue lines originate from the top left and extend diagonally towards the middle of the page.

新島学園短期大学 コメンテーターズ 一覧

取材等でコメンテーターをお捜しの
場合に参考資料としてご活用くださ
い。

2022 年度

コメンテーターズ・ガイド 目次

キャリアデザイン学科

職名	氏 名	キーワード	掲載頁
学長・教授	岩田 雅明	大学経営、2018 年問題、大学淘汰、大学倒産、大学の広報活動、大学の選び方、他	2
教授	駒田 純久	マーケティング、流通経営、ビジネス教育、キャリア教育	3
教授	高山 有紀	年中行事、衣食住、奈良、法会、教育史	4
学科長・教授	前田 浩	英語学、英文法、英語表現、英語音声	5
准教授	堀田 学	少子高齢化、地方行政、地方政治、福祉行政、福祉国家	6
准教授	松田 慎一	開発経済、開発金融、マイクロファイナンス、金融論、経済理論	7
准教授	李 元重	キリスト教、植民地朝鮮、同志社、新島襄	8
准教授	R. A. Maher	アメリカ文学、英語イマージョン教育	9-10
専任講師	加藤 匠	情報教育、人材育成、ICT、AI、コンピュータ・リテラシー、経営管理	11
専任講師	三成 清香	ラフカディオ・ハーン 日本語教育 やさしい日本語 多文化共生社会 さくらももこ	12

コミュニティ子ども学科

職名	氏 名	キーワード	掲載頁
学科長・教授	成田 小百合	子ども、母親、心理臨床、描画テスト、病院臨床、ケア、生涯発達	13
教授	澤田 まゆみ	ドビュッシーの音響技法、山田耕筰、安部幸明のピアノ曲、キリスト教と音楽	14
教授	鈴木 まゆみ	子ども理解 保育者の成長プロセス 絵本読み聞かせ 減災教育 子育て支援	15
教授	福島 秀起	和太鼓	16
教授	渡邊 哲也	多文化、異文化、ECEC (Early Childhood Education and Care)、OECD、キリスト教保育、心の教育	17
准教授	草間 吉夫	自立支援、チャイルドセンタードアアプローチ、パーソンセンタード、当事者活動	18
准教授	櫻井 剛	表現、造形、図画工作、立体造形	19

氏名 岩田 雅明 (イワタ マサアキ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 学長・教授

専門領域 高等教育（大学経営、広報）

専門の概要 大学の経営戦略策定と、その展開についての考察を専門としています。戦略をつくり、それをきちんと展開するために必要な視点と、マネジメントについて取り扱っています。また、18 歳人口の減少による定員割れの中、効果的に大学の良さを伝える広報戦略も専門としています。

備考 <著書>
●「未来が輝く大学の選び方」2009 年 4 月、エール出版
●「実践的学校経営戦略」2009 年 8 月、ぎょうせい
●「高校生のキャリアデザインと新しい大学・短大の選び方」
2010 年 8 月、ぎょうせい
●「生き残りをかけた大学経営戦略」2013 年 1 月、ぎょうせい
●「大学の戦略的広報」2014 年 8 月、ぎょうせい
●「戦略的大学職員養成ハンドブック」2016 年 2 月、ぎょうせい

<出演等>
●TBS ラジオ「Gaku-Shock」高校生のキャリアデザインについて
2010 年 12 月
●群馬テレビ「ビジネスジャーナル」
2012 年より、コメンテーター
●BS-TBS「NEWS21「就職率をアップせよ・・・大学の学生獲得作戦」
2013 年 2 月

キーワード 大学経営、2018 年問題、大学淘汰、大学倒産、大学の広報活動、大学の選び方、キャリア教育

氏名 前田 浩 (マエダ ヒロシ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 学科長・教授

専門領域 英語学

専門の概要 「英語学」は英語では **English linguistics** と言います。文字通り「英語の言語学」を意味します。英語学とは、英語の科学的研究で、一見何の規則性のない英語の事例の中に潜む規則性を発見し、そこにどのような規則が働いているか仮説を立て、それを証明するという科学的手法を取る学問分野です。英文法、英語表現（特に、口語英語表現）、英語音声に関して興味深い話をすることを比較的得意としています。

備考 <著書>
●「**Handsome** の女性に用いられる用法—アンケート調査とコーパスを用いて—」『比較文化学の地平を拓く』日本比較文化学会関東支部（編）、2014年 3 月 30 日、開文社出版
●「曖昧語の曖昧性を取り除く—日英語の蓋然性を表す副詞を中心に—」『比較文化学論纂』芳賀馨（編）、1998 年 4 月 20 日、開文社出版

<翻訳協力>

●『小学館 オックスフォード 英語コロケーション辞典』
八木克正（監）、2015 年 2 月 9 日、小学館

<論文>

- 「映画『赤毛のアン』における呼びかけ語としてのフルネームの使用」『大塚フォーラム』第 31 号、2013 年 11 月 25 日、大塚英語教育研究会
- 「大学生の英語音声習得の現状とその発音記号習得との関連性」『新島学園短期大学紀要』第 33 号、2013 年 3 月 31 日、新島学園短期大学
- 「文法性と容認可能性」『英語表現研究』第 18 号、2001 年 6 月 1 日、日本英語表現学会

<講演>

- 「文法は誤読を救う」、2015 年 6 月 14 日、外国語学校エスパス

<所属学会>

- 日本英語学会 ●英語語法文法学会 ●日本英語表現学会
- 日本比較文化学会（幹事） ●大塚英語教育研究会（幹事）
- 映画英語教育学会 ●筑波英語教育学会

<資格>

- 実用英語技能検定 1 級
- 国際連合公用語英語検定試験 A 級通訳案内業試験
- 日本語教育能力検定試験

キーワード 英語学、英文法、英語表現、英語音声

氏名 駒田 純久 (コマダ スミヒサ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 教授 入試部長

専門領域 マーケティング、流通

専門の概要 企業のマーケティング活動、とくにメーカーの流通チャネル戦略や卸・小売業のマネジメントを専門としています。また、最近の関心は、これから必要とされる商業（ビジネス）教育にあります。

備考 <著書>
●論文「商業教育の変容と商人像」2009 年、関西学院大学『商学論究』
●『1 からの戦略論 第2版』（共著）2016 年、碩学舎

キーワード マーケティング、流通経営、ビジネス教育、キャリア教育

氏名	高山 有紀（タカヤマ ユキ）
所属	キャリアデザイン学科
職名	教授 学務部長
専門領域	日本教育史、日本中世史
専門の概要	中世奈良の寺院で毎年開催された法会（ほうえ）の内容、特に僧侶の養成・教育に関わる部分について、その変遷を研究してきました。教育には、今も昔も変わらない点があり、時代を下り他の時代の教育と比較してみると新しい発見があります。また、仏教と関わりの深い年中行事や、衣食住の習慣、思想を通じて、日本文化を論じることにも関心を持っています。
備考	（論文） 「中世南都の寺院法会と僧具 ―その宗教的・社会的役割に関する一考察―」日本比較文化学会関東支部編『比較文化学の地平を拓く』（開文社出版 2014 年）所収 「中世の慈恩会」奈良女子大学古代学学術研究センター設立準備室編『儀礼にみる日本の 仏教 ―東大寺・興福寺・薬師寺―』（法蔵館 2001 年）所収 （項目執筆） 『年中行事大辞典』吉川弘文館 2010 年
キーワード	年中行事、衣食住、奈良、法会、教育史

氏名	堀田 学 (ホッタ マナブ)
所属	キャリアデザイン学科
職名	准教授
専門領域	政治学・行政学（地方自治、人口減少社会、福祉国家）
専門の概要	福祉国家について理論的な考察を中心に研究を行ってきました。また、福祉行政の主体が地方自治体であることから地方自治にも研究の視野を広げ、最近では人口減少社会に関心を持っています。
備考	< 著書（共著） > ● 「少子高齢社会の福祉政策－地方分権とローカル・ガバナンス」 山本啓編『ローカル・ガバメントとローカル・ガバナンス』2008 年 2 月、法政大学出版社 ● 「日本の少子化政策」 岡沢憲芙・小淵優子編『少子化政策の新しい挑戦－各国の取組みを通して』2010 年 4 月、中央法規出版 ● 「ローカル・ガバナンスと地方議会改革」 片木淳・藤井浩司編『自治体経営入門』2012 年 5 月、一藝社 ● 「地域医療・介護政策－地域包括ケアシステムにおける自治体行政の役割」 縣公一郎、藤井浩司編『ダイバーシティ時代の行政学』2016 年 10 月、早稲田大学出版部
キーワード	少子高齢化、地方行政、地方政治、福祉行政、福祉国家

氏名 松田 慎一 (マツダ シンイチ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 准教授

専門領域 開発金融論 経済理論

専門の概要 金融を研究対象の中心としています。特に「途上国における貧困」が研究テーマのひとつです。貧しい人々を対象とした金融サービスの提供を行う、マイクロファイナンスに関する研究を行っています。マイクロファイナンスは、無担保かつ無審査で、貧困層の人々に小口資金の貸し付けや、預金、保険などのサービスを提供しながら高い収益を誇り、ビジネスとしても成功を収め、市場も世界の国々で成長を続けています。

備考 <研究業績>

● (単著) 「社会的制裁とグループ貸付」新島学園短期大学紀要 第 34 号, 2014 年

● (共著) ” A Microstructural Effect of Japanese Official Intervention in the Yen/Dollar Foreign Exchange Market” Nova Science Publishers, Inc., 2013 年

● (共著) 「マイクロファイナンスにおける新たな潮流 -ASA によるグループ貸付の実例から-」日本政策金融公庫 第 10 号, 2011 年

キーワード 開発経済、開発金融、マイクロファイナンス、金融論、経済理論

氏名	李 元重 (リ ウォンジュン)
所属	キャリアデザイン学科
職名	准教授 宗教主任
専門領域	日本プロテスタントキリスト教史 日韓キリスト教関係史 同志社と新島襄の歴史
専門の概要	1859年、日本の開港・開国とほぼ同じ時期に日本でプロテスタント宣教が始まりました。キリスト者になった日本人は、その新しい宗教を隣国である朝鮮の人々にも伝えよとしました。一方で、朝鮮でも近代文明と共にキリスト教伝道が始まっており、日本よりキリスト教が民衆の中で活発に受容されました。両国は主にアメリカから影響を受けたキリスト教が芽生えたところには共通点があります。しかし、社会状況と受容の階層、民族主義との関りによって、その発展の様子は違いました。日本帝国は朝鮮半島を植民地化したので、両国のキリスト教の関係は国家権力、植民地化政策など政治や社会問題と絡み合って複雑な様子で現れました。それを明らかにするために、わたしは主に植民地朝鮮に在留していた日本のキリスト教を研究しました。その他、戦時下まで同志社大学と関連するキリスト者の神学と活動について研究業績を残しました。最近の関心は、戦後の日本キリスト教団の活動、内部葛藤であります。
備考	(共著) ●神田健次他『100年前のパンデミック』新教出版社、2021年 (学術論文-単著) ●「植民地朝鮮における日本基督教会－朝鮮中会建設から15年戦争の開始まで」『基督教研究』2014年、76巻1号、pp. 103～121 ●「植民地朝鮮における日本基督教会：朝鮮伝道の開始から朝鮮中会の建設まで」『キリスト教社会問題研究』2014年、63号、pp. 53～84 ●「戦後朝鮮半島における日本人教会」『キリスト教社会問題研究』2016年、65号、pp. 43～78 ●「戦前宗教関連法案をめぐる宗教界の対応－キリスト教界の対応を中心に」 ●『キリスト教史学』2017年、71集、pp. 153～174 ●「식민지 조선에 존재했던 일본 기독교회(植民地朝鮮に存在した日本基督教会)」『韓国教会史学会誌』2018年、50集、pp. 211～248 ●「일제 말기의 기독교 합동 운동 (日帝末期のキリスト教合同運動)」『韓国基督教神学論叢』、2018年、110集、pp. 221～247 ●「同志社大学における尹東柱詩碑建立の経緯と意義－ワンコリアの夢と新島精神の遭遇」『同志社談叢』2019年、39号、pp. 37～61 ●「魚木忠一の『日本基督教』を再考する－挫折した土着化神学への試み」『キリスト教社会問題研究』2019年、68号、pp. 91～115 ●「竹中勝男は二本のキリスト教をどのように理解したか」『キリスト教社会問題研究』2021年、第70号、pp. 63～91

キーワード キリスト教、植民地朝鮮、同志社、新島襄

氏名 Richard A. Maher (リチャード A. マハー)
 所属 キャリアデザイン学科
 職名 専任講師
 専門領域 アメリカ文学

専門の概要 Literature has a place in the EFL (English as a Foreign Language) curriculum. Literature expands language awareness by exposing students to authentic vocabulary and grammar structures. Also, it is a window to other cultures, customs, and ways of thinking. Literature encourages critical thinking and discussion about characters, plot, and social commentary. In addition, reading about the ideas and experiences of others helps students think about their own experiences and develop their own original ideas. It can inspire the imagination of students because they can talk about their feelings and opinions. Finally, literature can motivate students to read in English and their native language, and foster love for the written word.
 文学は EFL (外国語としての英語) のカリキュラムにおいて重要です。文学は、本格的な語彙や文法構造に学生が触れることによって、言語意識を広げます。また、それは他の文化、習慣、そして思考の方法を知る鍵となります。文学は小説の人物やストーリーや社会的な論評について、クリティカル・シンキングやディスカッションを促します。また、他人のアイデアや経験について読むことは、学生が自分の経験について考え、自分の独創的なアイデアを発展させることができます。自分の感情や意見について話すことができるので、文学は、学生の想像力を刺激します。最後に、文学は学生に英語や母国語で読む意欲を高め、そして本を好きになるきっかけとなります。

備考 <著書>
 ●“Seek the Light of Love”: Philip Lamantia’s “A Simple Answer to the Enemy”: Then and Now
 「愛の光を求めて」：フィリップ・ラマンティアの「ア・シンプル・アンサー・ツ・ザ・エネミー」：かつて、そして今
 2019年03月、新島学園短期大学紀要40号
 ●“Communing with the Flow: Rivers in the Poetry of Nanao Sakaki and Gary Snyder”
 「川の流れとの交感：ナナオサカキとゲーリー・スナイダーの詩における河川」
 2018年03月、新島学園短期大学紀要39号
 ●“Sowing Seeds to Save the Planet: Environmental Issues in the Poetry of Nanao Sakaki”
 「惑星地球を救うために種を蒔く：ナナオサカキの詩における環境問題」
 2017年03月、新島学園短期大学紀要37号
 ●“Falling Back into the World: Joanne Kyger’s Verse during her First Year in Japan”
 「現世への回帰：ジョアン・カイガー滞日一年目の詩作」
 2016年03月、新島学園短期大学紀要36号
 ●“Notwithstanding the Broken English and Imperfect Grammar”: A Short Analysis of Joseph Hardy Neesima’s Letters in English
 「片言の英語と不完全な文法にもかかわらず」：新島襄の英語で書かれた手紙の分析 2015年3月、新島学園短期大学紀要35号

● **Ring the Bell: The Man, the Mountain, and the City in Lew Welch's *Hermit Poems* and "The Way Back"**

鐘を鳴らす：ルー・ウェルチの「隠者の詩」と「ザ・ウェイ・バック」における男、山と街 2014年3月、新島学園短期大学紀要34号

● **Hunting and Gathering Culture: Daily Life, the Seasons, and the Expatriate Experience in Philip Whalen's Japan Poems**

文化を狩り、そして摘む：フィリップ・ウェイレンの日本の詩における日常生活季節、および海外在住者の経験
2013年3月、新島学園短期大学紀要33号

● 「国人あら見た」シリーズ①：“高崎のいいところ”

2013年6月7日、ちいきしんぶん

● **Memory Stretches and Love Streams: Interconnectivity, Nature, and Romance in Michael McClure's "Dear Being"**

追憶の拡張と愛の流れ：マイケル・マクルーアの「ディア・ビーイング」における相互接続性、自然と恋愛感情 2012年3月、
新島学園短期大学紀要32号

● **Food for Thought: マハーさんが思うこと、感じること**
2012年1月～12月（月一回）、上毛新聞 TAKATAI

● **Gregory Corso's "The American Way": Then and Now**
グレゴリー・コールソの「ザ・アメリカン・ウエー」：その当時と今
2011年3月、新島学園短期大学紀要31号

● **Food for Thought: マハーさんが思うこと、感じること**
2011年1月～12月（月一回）、上毛新聞 TAKATAI

<出演等>

● 新島学園短期大学2014年度キャリアデザイン学科公開講座
“10 Years Abroad: Evaluating Joseph Neesima's English Skills”
「米国留学10年間：新島襄の英語能力評価」2014年8月30日

● 2012年度群馬県茶道会総会・講演会
「日本での15年：アメリカ人の視点」2012年6月11日

● 新島学園短期大学2012年度キャリアデザイン学科公開講座
“Evaluating President Obama's 1st Term” 「オバマ大統領の4年間のキャリア形成」2012年8月25日

キーワード アメリカ文学、英語イマージョン教育

氏名 加藤 匠 (カトウ タクミ)
所属 キャリアデザイン学科
職名 専任講師

専門領域 情報教育、経営学

専門の概要 テクノロジーの発展により、多くの仕事を機械ができるようになりましたが、知的労働は人間が行ってきた歴史的経緯があります。しかし、近年では知的労働までもコンピュータに代替される可能性が指摘されてきました。そこで私は、コンピュータに仕事を奪われやすいとされてきた仕事の需給バランスがどのように変化してきたかについて、情報技術の進歩やICT教育の変遷をたどりながら研究を進めています。

備考

<論文>

●共著「An Empirical Analysis of The Substitution of Accounting Work by Computers Using Long-term Time Series Data」(2022)『Journal of Management Science vol. 11, 2022』

●単著「AIによるパラダイムシフトと人材育成に関する一考察」(2020)『立教ビジネスデザイン』第17号

<学会発表>

●「第4次産業革命期における雇用の実証分析」(2022)
ビジネスクリエーター研究学会 第25回研究大会

<所属学会>

日本経営会計学会、ビジネスクリエーター研究学会、日本情報教育学会

<資格>

情報処理技術者試験 ITパスポート 取得、情報処理技術者試験 情報セキュリティマネジメント 取得、高齢・障害・求職者雇用支援機構 神奈川職業訓練センターワークガイダンス講習 講師育成講座 修了

キーワード 情報教育、人材育成、ICT、AI、コンピュータ・リテラシー、経営管理

氏名	三成 清香 (ミナリ サヤカ)
所属	キャリアデザイン学科
職名	専任講師
専門領域	比較文学、日本語教育
専門の概要	これまで、Lafcadio Hearn (小泉八雲) の研究をしてきました。以前はハーンの著作の中でも主に再話作品に焦点を当て、「女性」、「ジャポニスム」といった視点から分析を行ってきました。現在ではより広く、ハーンの様々な面に注目して研究をしています。その一方で、国内外で10年以上日本語教育に従事してきました。外国人に日本語を教えること、日本語のしくみ、ひいては多文化共生社会についても広く関心をもち考えています。
備考	● (共著) 三成 清香「第1章 ちびまる子ちゃん表象 ―ももこから〈まる子〉へ―」友原嘉彦編『ちびまる子ちゃんの社会学』(古今書院、2021) <主な論文> ● (博士論文) 三成 清香『海を渡った物語 ―ラフカディオ・ハーンと再話、そして女性―』 ● (単著) 三成 清香「再話の中の女たち ―『夜窗鬼談』から『鏡と鐘と』 <i>Of A Mirror And A Bell</i> へ」『日中言語文化 13』(日中言語文化教育推進会、2020) ● (単著) 三成 清香「『生神』 <i>A Living God</i> とハーン―史実と『稲むらの火』との比較から」『下関市立大学論集 62 (3)』(下関市立大学、2019) ● (共著) 丸島 歩、三成 清香「外国につながる子どもとその親の日本語習得を目的とした日本語児童文化財活用の可能性：絵本の語彙分析を通じて」『新島学園短期大学子ども学研究論集 7』(新島学園短期大学、2021) ● (共著) 三成 清香、呉 香善、重田 美咲「韓国からの留学生受け入れの展望と課題：日本留学フェア(釜山)に参加して」『下関市立大学論集』(下関市立大学、2020) <講演・講座等> ● (共同) 「日本語教室ボランティア養成講座」(鹿沼市国際交流協会、2014、2015) ● (単独) 「ラフカディオ・ハーンと日本―日本に魅せられた八雲の世界―」(宇都宮大学公開講座(全10回) 2016) ● (単独) 「上三川中央公民館 文学講座」(各全3回、2017、2018、2019) ● (単独) 「ラフカディオ・ハーンの描いた女性像」(八雲会、招待講演、2017) <資格> DELE Intermedio、中学校教諭1種免許状(社会)、高等学校教諭1種免許状(公民)、日本語教師養成講座420時間修了、日本語教育能力検定試験 合格 キーワード ラフカディオ・ハーン 日本語教育 やさしい日本語 多文化共生社会 さくらももこ

氏名	成田 小百合 (ナリタ サユリ)
所属	コミュニティ子ども学科
職名	学科長、教授、臨床心理士
専門領域	臨床心理学（病院臨床、遊戯療法）
専門の概要	子どもと母親に関する心理臨床的問題が現在の研究テーマになっています。特に、遊戯療法、描画テストを専門として、臨床実践を研究と教育に結びつけて活動しています。
備考	<主な論文> 「子どもへの悩みからみた母親の成長」2008 年 新島学園短期大学紀要第 28 号 「保育学生における母子画の標準タイプー保育者志望動機との関連」2010 年新島学園短期大学紀要第 30 号 「わが子へのケアから他者へのケアへー重症心身障害者の母親における他者との関係性に基づいた世代性の類型化」比較文化の地平をひらく p 358～P370 2014 年 開文社 <地域活動> 2010 年 11 月 渋川市役所：女性のためのアサーション講座：講師 2011 年年 9 月 渋川市役所：コラージュの体験：講師 他 <所属学会> 日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本描画テスト描画療法学会 他
キーワード	子ども、母親、心理臨床、母子画、遊戯療法、トラウマ

氏名	澤田 まゆみ (サワダ マユミ)
所属	コミュニティ子ども学科
職名	教授
専門領域	音楽 (ピアノ)
専門の概要	ピアノ演奏を専門とし、バッハから現代作曲家までのレパートリーをもちますが、とくにドビュッシーの音響技法や山田耕筰、安部幸明のピアノ曲に精通しています。また、音楽を子どもと分かち合う活動や、キリスト教と音楽の関係についても研究・取組みを続けています。
備考	<主要公演> ●「ショパン没後 150 年記念リサイタル」2003 年 10 月、フランス/パリ ●「演連コンサート 澤田まゆみピアノリサイタル」2008 年 6 月、東京 ●「IX International Conservatory Week Festival」にて邦人作品演奏 2009 年 11 月、ロシア/サンクトペテルブルク ●「高崎音楽祭 2013」にて群馬交響楽団と共演 2013 年 9 月 ●「ドビュッシーと音楽散歩 ピアノ作品全曲演奏会」2013 年～2018 年、高崎 ●「澤田まゆみピアノリサイタル my favorites シリーズ」2012 年～、東京 <論文> ●ドビュッシー《6 つの古代碑銘》(ピアノ二手版)の演奏について 2011 年 3 月、新島学園短期大学紀要 31 号 ●保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か 2013 年 3 月、新島学園短期大学紀要 33 号 ●安部幸明作曲 やさしいこどものピアノ曲集《夢の世界》について 2014 年 3 月、新島学園短期大学紀要 34 号 ●ピアノ曲《子供とおったん》にみる山田耕筰一初版における挿絵と詩文を手がかりに― 2017 年 11 月、音楽表現学 vol.15 <著書・CD> ●「キリスト教とともに学ぶ音楽」2010 年 4 月、聖公会出版 ●「曼珠沙華 山田耕筰 ヴァイオリンとピアノのための作品」2011 年 2 月、ミッテンヴァルト ●「夢の世界／子供の領分」2014 年 5 月、ミッテンヴァルト ●ピアノ奏者の視点から見た「合わせ」の諸相 『音楽表現学のフィールド 2』 2016 年 9 月、東京堂出版 <その他> ●上毛芸術文化賞受賞 2007 年 3 月 ●オピニオン 21<視点>委員 (上毛新聞社) 2008～2009 年 ●ショパン国際ピアノコンクール in アジア 審査員 2012 年～ ●日本演奏連盟会員、ぐんま日独協会理事、日本音楽表現学会理事、群馬音楽協会理事 ●高崎経済大学附属高等学校芸術コース音楽系講師 2006 年～ ●上田ーウィーンアカデミー参加アーティスト 2010 年～
キーワード	ドビュッシーの音響技法、山田耕筰、安部幸明のピアノ曲、キリスト教と音楽

氏名 鈴木 まゆみ (スズキ マユミ)
所属 コミュニティ子ども学科
職名 教授

専門領域 幼児教育、保育学

専門の概要 保育の基本である「子ども理解」についてニュージーランドのラーニングストーリーを手がかりとして研究を進めています。また、保育者や母親の成長プロセスの中で、「子ども理解」がどのように深まり変容を見せるのか、実践に活きる内容を模索し、保育アドバイザーとして活動を展開しています。さらに、東日本大震災以降、減災教育に活用する教育コンテンツの開発についても研究し、「子ども理解」にもとづく減災絵本の制作に取り組んでいます。

備考

<論文>

●「保育者が語る子ども理解変容プロセス」修士論文2013年9月

<著書>

●『子どもの姿からはじめる 領域・環境（知のゆりかご）』2021年5月

監修：秋田喜代美 三宅茂夫 編集：東 義成 共著 担当（33～50頁）

●減災絵本『へんしんスマイルにんじゃひなんくんれんのまき』

企画・制作・イラスト：いわき短期大学減災絵本サークル 発行：いわき短期大学
（全24頁にわたり企画・制作を監修）2000年3月

<研究ノート>

●保育施設における防災教育実施状況に関する基礎的分析

いわき短期大学紀要第53号掲載 共著 担当：（15～17頁）2020年3月

●幼児教育科学生による減災絵本制作の取り組みに関する考察 2020年3月

いわき短期大学紀要第53号掲載 共著 担当：（39～64頁）

<口頭発表>

●平成27年度第6回幼児教育実践学会

「保育者のその子らしさを育む子ども理解の視点－5歳児の個と集団の姿をとらえる子ども理解の変容に焦点を当てて－」いわき短期大学附属幼稚園との共同研究

●東北大学災害科学国際研究所令和2年度共同研究成果報告会 Web開催

「地域の実情と子どもの発達をふまえた減災コンテンツの開発と園児を対象とした減災教育の実証研究」

<社会における活動>

保育者対象研修会

●令和2年度6月いわき市保育士新任研修会「保育に求められる豊かな環境」講師

●令和3年度8月福島県公益社団法人私立幼稚園・認定こども園連合会主催 研第4回新任教員研修会④ 「保護者との連携」講師

●令和3年9月～現在に至る 福島県いわき市勿来カトリック幼稚園

保育研修会 講師 会場：勿来カトリック幼稚園

第1回 題目：「保育とは ～子どもを温かいことばで育むために～」

第2回 題目：「温もりのある保育 ～子どものことばから理解を深めるために～」

第3回 観察について 第4回～6回 記録について 等

保護者・一般の方対象研修会

●令和4年1月 パライソエンジェル保育園マザーズデイ 講師

「乳児期における絵本の重要性」

●令和4年10月特定非営利活動法人 Commune with 助産師

(Nonprofit Organization) ホームビジター研修会「子ども理解」講師

キーワード 多文化、異文化、E C E C (Early Childhood Education and Care)、O E C D、キリスト教保育、心の教育

氏名	福島 秀起（フクシマ ヒデキ）
所属	コミュニティ子ども学科
職名	教授
専門領域	表現「和太鼓」
専門の概要	伝統楽器「和太鼓」 「打てば響く」太鼓の奥深さを探究し、現在では地域の子供から大人をはじめ、現場の教職員も太鼓を通じて関わりを深めております。現在、和太鼓の道場を開き地域活動や発表を含む指導や作曲を手掛けております。
備考	1990年～ ・前職場（川越市）で「音出舞座」として太鼓グループを結成。各種イベントに出演 ・依頼を受けた全国の保育園、幼稚園、各種団体の太鼓指導 ・地方で保育園、幼稚園の教諭に向けて宿泊講習会を開催 2000年～ ・高崎市保育専門学校にて「表現」の授業で和太鼓を取り入れ指導 ・現在、職場でも「職員太鼓」を導入し、行事等で披露 ・太鼓道場「風馬」を開設し、12年目を迎え現在に至る
キーワード	和太鼓

氏名 渡邊 哲也 (ワタナベ テツヤ)
所属 コミュニティ子ども学科
職名 教授

専門領域 海外保育・キリスト教保育

専門の概要 海外、主に欧米における乳幼児の教育とケア (Early Childhood Education and Care) と日本の幼児教育・保育。
キリスト教主義の保育者養成という視点から心の教育。

備考 <学会発表>
●キリスト教保育を巡る保育者養成の実際と課題～多様性と比較の中で～」2018 年 5 月、第 71 回保育学会(口頭発表、共同)
●「キリスト教保育を巡る保育者養成の実際と課題」2017 年 5 月、第 70 回保育学会(口頭発表、共同)
●「「保育・教職実践演習」を通して保育者の専門職性を探る」2017 年 5 月、第 70 回保育学会 (口頭発表、個人)
●「Christian Education and Child minder and Kindergarten Teacher Training based on Survey」2016 年 7 月、OMEP (世界幼児教育・保育機構) 大会 梨花女子大学、ソウル、韓国 (ポスター発表、個人)
●「キリスト教主義に基づく保育者養成課程の考察 一心の教育を通して保育の専門性を身に付ける」2015 年 9 月、全国保育士養成協議会 第 54 回研究大会(ポスター発表、個人)
●「Christian Education and Caregiver and Kindergarten Teacher Training in one community, Japan」2015 年 7 月、OMEP Washington D.C. (筆頭発表者、口頭発表、共同研究)
●「キリスト教教育と保育者養成」2015 年 5 月、第 68 回保育学会 (筆頭発表者、口頭発表、共同研究)
<著書>
●「『これからの保育と教育』第 5 章 保育・幼児教育のはじまりと思想ー子どもの目を見つめた先人たちー」、2018 年 4 月、八千代出版株式会社(共著)
●「平成 28 年度 専門委員会課題研究報告書 保育実習指導科目のシラバスからみえる指導の実際と課題」、2017 年 6 月、一般社団法人全国保育士養成協議会(共著)
●「地域に根ざした『教職実践演習』を考える」、2017 年 7 月、新島学園短期大学 紀要 第 38 号(共著)
●「学生の学びの基本姿勢の再構築への取り組みー指定保育士養成・幼稚園教諭課程認定大学として」、2009 年 3 月、新島学園短期大学紀要第 29 号

キーワード 多文化、異文化、E C E C (Early Childhood Education and Care)、O E C D、キリスト教保育、心の教育

氏名	草間 吉夫 (クサマ ヨシオ)
所属	コミュニティ子ども学科
職名	准教授
専門領域	児童福祉、社会的養護、社会的養護児の自立支援
専門の概要	児童福祉政策全般を研究しておりますが、近年は社会的養護を経験した当事者の自立に関心を持っており、当事者の自立支援や当事者活動について研究しています。
備考	<寄稿文> ●「福祉新聞2022年5月23日（予定）」福祉新聞社 <著書> ●「子どもの虹情報研究センター紀要No.5」共著，こどもの虹研究センター，2007 ●「高萩発実践行財政改革 -2 公社清算の軌跡-」監修，ぎょうせい，2011 ●「施設・里親を巣立った子どもたちの自立-社会的養護の今-」共著，福村出版，2012 ●「生活を創る子どもたちを支えて」共著，福村出版，2013 ●「幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設等 実習ガイドブック -その理論と実践-」編著，建帛社，2015 ●「英国のリービングケア制度と実践 - 社会的養護から旅立つ若者への自立支援 -」共著，2015 ●「児童養護施設の子供の貧困を考える」主著，社会福祉法人同仁会，2017 ●「実践に活かす社会的養護 I」共著，ミネルヴァ書房，2020 <主な論文> ●「I県の児童養護施設における児童自立支援計画の現状と一考察」修士論文，東北福祉大学大学院紀要，2004 ●「社会的養護経験者・当事者が解決すべき課題problems and countermeasures to be solved by social care experienced persons and parties」共著，大谷哲夫先生傘寿記念論文集，2022 <講演> ●「第70回児童養護施設長研究協議会」共同，2017 ●「第69回児童養護施設長研究協議会」単独，2016 ●「自民党児童養護を考える議員連盟」単独，2012 <TV出演> ●「ビートたけしのTVタックル」2012 ●「なんでもお宝鑑定団」2009 ●「NHK日曜フォーラム『児童虐待防止フォーラム』」2007 <資格> ●児童指導員任用資格，社会福祉主事，社会福祉士国家受験資格
キーワード	自立支援，チャイルドセンタードアプローチ，パーソンセンタード，当事者活動

氏名	櫻井剛（サクライ ツヨシ）
所属	コミュニティ子ども学科
職名	准教授
専門領域	立体造形、美術教育
専門の概要	幼児の造形表現における自然の素材についての考察を専門としています。さらに具所的な立体造形の製作を専門としています。
備考	<学会発表> ・「子どもの木工 加工について」第 66 回日本保育学会大会(中村学園大学)、2013 年 5 月 11 日 ・「子どもの木工 つなげる、組み合わせる」第 65 回日本保育学会大会(東京家政大学)、2012 年 5 月 4 日 <論文> ・「保育内容（表現）における劇的要素を含む授業について」清泉女学院短期大学、『清泉女学院短期大学研究紀要』第 34 号(2015)、2016 年 3 月、(共著) ・「演劇に関する研究の動向 ー日本保育学会年次大会（2001～2015）における研究発表を中心にー」『有明教育芸術短期大学紀要』第 7 巻、有明教育芸術短期大学、2016 年 3 月、(共著) ・「保育者養成校の造形表現の授業における自然について」『清泉女学院短期大学研究紀要』第 35 号(2016)、清泉女学院短期大学、2017 年 3 月、(単著) ・「保育者養成校の教育実習指導の授業についての一考察」『新島学園短期大学子ども学研究論集』第 1 号、新島学園短期大学、2017 年 9 月、(単著) ・「演劇に関する研究の動向Ⅲ - 日本保育学会年次大会(1948～1985)における研究発表を中心に -」『有明教育芸術短期大学紀要』第 9 巻、有明教育芸術短期大学、2018 年 2 月、(共著) <作品> ・「葉の向こう」第 66 回 北信美術展(長野市 長野市生涯学習センター)、2015 年 10 月 4 日～10 月 12 日 ・「子どもたちの世界」第 91 回白日会展(港区・国立新美術館)、2015 年 3 月 18 日～3 月 30 日 ・「洞窟」第 67 回 北信美術展(長野市 長野市生涯学習センター)、2016 年 11 月 7 日～11 月 13 日 ・「春の日」第 94 回白日会展(港区・国立新美術館)、2018 年 3 月 21 日～4 月 2 日
キーワード	表現、造形、図画工作、立体造形

MEMO

問い合わせ先

〒370-0068

群馬県高崎市昭和町53新島学園短期大学

TEL.027-326-1155 FAX.027-324-1444

<https://www.niitan.jp/>